



空襲後の櫛屋町周辺

# 平和への思いを次の世代へ語り継ぐ 戦争体験のお話を伺いました

戦争を体験した人々や当時の状況を想起させる建物などが少なくなりつつあります。戦争当時の記憶を風化させることなく次の世代へつないでいくために、市内の戦争体験者のお話を今も残る空襲の跡とともに紹介します。

お問い合わせ／人権推進課(TEL 918-5058 FAX 918-5131)

## 戦争のない社会を、と願いを込め 「平和」というものを伝えたい

敵軍の飛行機から機銃掃射を受け、側溝に飛び込んで何とか助かったことや、夜の空襲で東の空がタ焼けのように真っ赤に染まったことは、今でも忘れられません。戦争が終わった後も食料の確保が難しく、せっかく手に入れても取り締まりで全て没収されてしまうなど、苦勞が絶えませんでした。

人と人との殺し合う戦争は、敵も味方も多くの人たちを不幸にします。決して繰り返してはいけません。若い世代に同じ思いをしてほしくないからこそ語り継いでいきたい。そして相手を敬い、人と人との調和し合う平和な世の中にしていってほしいと思います。

まさの みつり  
牧野 満徳さん

1945年、5～6歳ごろに  
機関銃で攻撃を受けました。



明石公園で空襲があったときの様子を語る牧野さん



## 自分たちの代が伝えていける最後の代だと思い 語り継いでいかなければならない

最初の空襲のときは、空襲警報で「敵機が淡路島の上空を北上中」と言っている間にもう真上に敵機がいました。自宅の防空壕に入りましたが、凄まじい衝撃でした。神出町(神戸市)に疎開した後、夜に自宅の方を見ると空全体が赤くなっていて、「あれは明石が燃えているんだよ」と教えてもらいました。

もともとは戦争体験を自分の口から話すことに乗り気ではありませんでしたが、自分よりも若い人は当時は幼く記憶や恐怖があまりないため、自分たちが語り継いでいかなければならないと少しずつ話すようになりました。戦争を体験したからこそ、今の世代の人たちには戦争を体験しないでほしいです。

やの ようこ  
矢野 容子さん

1945年7月7日、5歳のころに  
空襲で家が丸焼けになりました。



十輪寺(西新町)

空襲で焼け残った木



父が川崎航空機明石工場に務めていたので、近くの社宅に住んでいました。1月19日、明石の大空襲で家は壊れ、お釜のごはんは土だらけでした。田植えの終わった田んぼに焼夷弾が何本も突き刺さり、真っ赤な炎が昼のように明るかったです。道は逃げまどう人でいっぱい。岬町には死体が材木のように山積みになっていました。

終戦後は家もなく、水も食べる物も着る物もなく、一家でさまよい、貧乏生活が始まりました。両親は住む家と職を求めて、転々と各地を移住しました。

今、かわいいひ孫たちを見る度に80年前の自分と重ね合わせます。

うらぐち よしえ  
浦口 由恵さん(5歳のころに体験)



空襲で犠牲になった人の霊を鎮めるため、1973年に建立

警戒警報がよく発令され、その度に防空壕に入り、息を殺して静かに耳をすまして、外の物音をじっと聞いていました。夜になると、外に灯りが洩れてはいけなと電気の傘に黒い布を被せるので、いつも部屋は暗く警報が鳴ると壕に入っていました。

終戦後は大人も子どもも我慢の生活で、煮炊きするにも金具の物はほとんど軍に徴収され、鍋は1つしかなく、その鍋で母が作ってくれるすいとんが主食でした。いつもおなかを空かせていました。

戦争は誰も幸せにはならない。二度と戦争はしないでと祈らずにはおれません。



空襲で亡くなった人の慰霊墓があります

おおにし やよい  
大西 弥生さん  
(4歳～小学3年生のころに体験)

小学校的の通学途中で空襲警報が鳴ると防空頭巾をかぶり、道路でうつぶせに伏せて、敵から見えないようにしていました。また、白い服は目立たないように草色に染めていました。

終戦後の小学3年生のとき、使っていた教科書の不適切な表現の行を墨で塗りつぶしたり、ページを貼り合わせたりしました。きっと先生が消す理由などを話したのでしょう。

テレビなどで戦争の場面を見ると当時を思い出し、心が痛むので見ないようにしています。これは戦争に行った父も同じです。

よしだ しなこ  
吉田 等子さん(小学3年生のころに体験)



空襲犠牲者之碑(西新町)

空襲を受けた日時や死者数、被害家屋の数が書かれています

## 平和パネル展 戦災の記録写真の展示を行います。

日時／9月2日(火)～16日(火) 午前9時～午後5時  
(2日は午後1時から、16日は午後4時まで)

場所／市役所本庁舎2階ロビー



## 戦争にまつわる体験談を募集しています

戦争の悲惨さを記録し、次世代に受け継いでいくため、戦争にまつわる体験談(明石市での空襲体験、学童疎開、被爆体験、親や祖父母から聞いた話など)を募集しています。集まった体験談などは広報あかしや寄稿集へ掲載するなど、平和啓発のために使用します。

申し込み 郵送・メール・ファクシミリ(氏名・ふりがな・住所・電話番号を記入)で人権推進課(〒673-8686 市役所内 TEL 918-5058 FAX 918-5131 jinken@city.akashi.lg.jp)へ。様式は問いません



詳しくはこちら

## 戦没者を追悼し平和の祈念を

### きょう正午から黙とう

8月15日は、「戦没者を追悼し平和を祈念する日」です。戦争で犠牲になった人たちに追悼の意を捧げるとともに、平和を祈念するため、市民のみなさんも正午から1分間の黙とうを捧げましょう。

お問い合わせ／福祉総務課(TEL 918-5025 FAX 918-5106)

市内5か所の忠魂碑でも正午から黙とうが行われます

場所／中崎忠魂碑(中崎遊園地・相生町1丁目)  
林忠魂碑(林神社・宮の上)  
大久保忠魂碑(住吉神社・大久保町大久保町)  
魚住忠魂碑(魚住市民センター・魚住町西岡)  
二見忠魂碑(御厨神社・二見町東二見)

## 市ホームページからも 明石の空襲を知ることができます

### 明石の空襲一史実編

明石が受けた空襲による被災の状況を中心に、今も市内に残る戦争の傷跡や空襲の様子、空襲で犠牲になった人々を慰霊する碑を、当時の写真や文献資料などを交えて紹介しています。



### 平和啓発マンガ「七夏の願い～明石空襲～」

明石に住む高校生ゆうきと明子。登校中に会ったおばあさんから明石に空襲があったことを聞き、帰りに明石公園にある「明石空襲の碑」を見に行く。そして、自分の家族やまちのことを知ることに…。

ホームページ  
はこちら



## 文化博物館

### 防火弾などの実物と映像で戦争を知る 戦後80年―戦時下の明石―

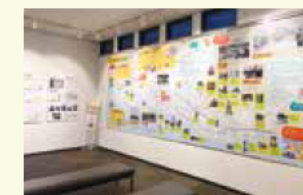
～9/23

明石の空襲で使用されたものと同じ型の焼夷弾や、火事のときに消火するために広く利用された防火弾、当時の映像などを見ることができます。

期間／9月23日(火・祝)まで

### 平和の尊さをつないでいく 平和資料室

明石の戦災をイラストや写真を使いながら、分かりやすく解説しています。また、戦争体験者の声を動画で紹介しています。



いずれも時間／午前9時30分～午後5時30分  
(入館は午後5時まで) 月曜日休館(祝日の場合は開館)

※9月7日までは、無休・入館は午後6時まで

お問い合わせ／文化博物館(TEL 918-5400 FAX 918-5409)

いずれも  
無料

## 第21回 ピースフェスタ明石 ～平和・いのち・子ども～

①ウォールギャラリー展「日本被団協の歩みと展望」など  
日時／8月16日(土)～24日(日) 午前9時～午後9時  
(18日休館。24日は午後4時まで)

②『戦後80年』今と昔、平和を考えるギャラリー展  
日時／8月23日(土) 午前11時～午後7時、  
24日(日) 午前9時～午後4時

③戦争体験談の集い  
日時／8月23日(土) 午後2時～3時30分

④広島県被団協・佐久間邦彦さん講演会  
日時／8月24日(日) 午後1時～3時(正午開場)

費用／前売り1000円、当日1200円

※障害者・学生は500円、高校生以下無料

いずれも場所／ウィズあかし(アスパア明石北館8・9階)

※③④手話通訳・要約筆記あり

主催・お問い合わせ／ピースフェスタ明石実行委員会  
(TEL・FAX 912-2797)

①～③  
無料

申し込み  
不要